

常任理事を先頭に、今！必要な課題に取り組もう！

第2回常任理事会・8月21日開く

第2回常任理事会は8月21日（日）が、事務局で開催されました。事務局から、各地で開催された平和展を始め、第1回常任理事会（7/2）以後の取り組み報告がなされたあと、秋のとりくみ（9月～12月）が提起されました。内容は以下の通りです。



1. 「脱原発」のとりくみ

（9～10月（ピーク）～11月）

- ・「茨城の原発をなくそう」をテーマに進める。東海原発は現在定期点検中。11月終了予定。その後、運転再開の可否を判断する。「運転を再開するな。廃炉にせよ」の運動を強化する。

（1）学習会を進める

- ・引き続き、網の目に進める。視点は「原発はいらない」
 - ・独自の学習会・講演会・展示会等だけでなく、連帯して進める。
 - ・JCOの集会に積極的に参加する。→10月1日（土）
- #### （2）宣伝活動（音声、チラシ）
- ・県委員会で作成した「原発はいらない」「東海原発は廃炉に」のチラシを活用する。
 - ・「震災・原発問題のパネル展」にとりくむ →自治体庁舎、公民館、センターなど利用→パネルは県委員会で作成。地元作成等も考える。

（3）署名活動

- ・「東海第二原発を廃炉に」の署名を進める。提出先は県知事、東海村→「東海原発を廃炉」の運動を通し、全国の脱原発（「原発ゼロ」）の運動に連帯する。
- ・力量に応じて、全国組織や他団体の署名にも参加する。
- ・締め切りは、毎月月末。最終締め切りは、理事会で協議する。
- ・東海村の村民に対する働きかけを進める。 目標数 理事会で協議する

（4）統一集会（学習会）のとりくみ

- ・11/20（日）午後1時～：水戸・青少年会館大会議室（最大300名収容）
- ・他団体に呼びかけ、実行委員会形式がベストか？
→平和委員会が呼びかける情勢

（5）平和広告のとりくみ

- ・「2/8」掲載を → 11月とする。「東海原発再稼働反対・

廃炉に」の取り組みの山場で行なう。

- ・一面を借り切って掲載する。宣伝・署名・統一集会と一体でとりくむ→賛同者目標 個人=1200名 団体=130団体
- （6）常任理事会の開催（10月中旬を目処に、取り組みの全体化をはかる）
- ・具体的な日程は、取り組みの進展を考慮し、全体集会を意識して決定する。

2. 秋の平和宣伝活動

- ・「脱原発へのとりくみ」として行なう。チラシ配布、署名活動、平和広告、駅頭でも訴える。

3. 米軍基地撤去等のとりくみ

- ・普天間基地のオスプレイ・MV22配備反対
- ・高江（沖縄）ヘリパット建設反対→パンフレット（600部）、反対署名等に取り組む。

4. 仲間づくり

- ・毎月5名以上の会員拡大を「草の根運動として」進めることが、8月に途切れかねない。
- ・各平和の会・平和委員会で、「月に1人の新会員を迎える」ことを追求する。
- ・会員名簿の再確認を行い、拡大目標をたてる

5. ワイン販売

- ・12月に実施 値段は1500円→平和ラベルを作成し貼付する。

6. 「核兵器全面禁止のアピール署名」を積極的にすすめる。

- ・10月の国連総会に提出されます。×切は9月末。

7. 「20周年記念事業」のとりくみ

- ・年が明けてから実施する。常任理事の方から、実行委員を募る。

8. その他

- ・日本平和大会（沖縄）：11月25日（金）～27日（日）

第1回茨城県原水協学校が開校！

みんな集まれ！みんなて学ぼう！

日時：9月17日（土）午前10時～午後4時
ところ：東海村舟石川コミセン第1・2会議室

参加費：無料

*10時にテラパーク駐車場に集合。ガイドが待っています。

【内容】

- 10:00～12:00 東海2号炉などの原子力施設見学
- 12:50 舟石川コミセンに集合（昼食を済ますこと）

【講義内容】

- 13:00 開校のあいさつ（県原水協会長：加藤 岑生）
- 13:15 「福島第1原発事故と核兵器廃絶運動」
講師：福島県原水協事務局 石堂 佑子さん
- 14:15 「原水爆禁止運動の基礎と今日の課題」
講師：日本原水協講師
- 15:00 質疑、応答、討論
- 16:00 閉校のあいさつ（県原水協副会長：河野 恭子）

主催：原水爆禁止茨城県協議会（Tel.029-251-9919）

後催：東海村平和委員会（Tel.029-282-9067）



歓迎！新入会員のみなさんです。
宜しくお願ひします。

有水 純一 さん（石岡市）
白井 八ツ さん（守谷市）【賛助会員】

各平和の会（平和委員会）のみなさん一人ひとりの力で、
月5名の仲間づくりを実現いたしましょう。

平和新聞

2011年9月5日（月曜日）

1965号（毎月5,15,25日発行）

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 **日本平和委員会**
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館
（郵送料月額120円）電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

平和かわら版 平和新聞茨城版 No.603

2011.9/5

発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

『原水爆禁止世界大会』

長崎
8月8日

第11分科会

「パネル討論：核兵器・原発とエネルギー問題」には、400人を超える人が参加しました。

茨城県原水協の加藤岑生会長は、40年余の日本原子力研究所（現原子力研究開発機構）で働いてきた経験をもとに、

「核エネルギーの利用技術の研究と開発は歴史が浅い。核エネルギーの利用の基礎研究を長期的観点で進める必要がある」と指摘。安全神話を広げてきた原発利益共同体の問題をあげ「単に原発だけでなく、日本社会を支配しているシステムそのものを追求しなければならない」と述べました。



【原水爆禁止世界大会・長崎】

食糧と農業と平和を考える出会いのイベント

『百里の稲刈り』に多数の参加を！

第18回 サァ・稲刈り！

日時：9月23日(金・祝日)

午前10時～午後3時 小雨決行

ところ：百里平和農園

(滑走路を挟んで百里平和公園の反対側)



参加費：1000円（10歳未満は、年齢×100円）

主催：一緒に作ろう！「日本のお米」実行委員会

連絡先：茨城農民連 029-292-8732（担当：村田）

石岡駅への送迎希望の方は、ご連絡ください。

茨城革新懇第31回記念講演会のお知らせ

『原発からのすみやかな撤退、自然エネルギーの本格的導入を』

日時・場所：9月24日(土)午後1時30分～

県立青少年会館大研修室

参加自由・入場無料

講師：紙 智子氏（日本共産党参議院議員）

福島原発事故ではいまも8万3000人の人々がいつ戻れるか分からない避難生活を強いられており、相馬市では酪農家が「原発さえなければ」と書き残して亡くなったことを国会で追及した紙議員。「ひとたび事故が起きたら、他の事故とは全く違う異常な深刻な危機をもたらすのが原発事故だ」と原発からの撤退を提言します。

主催：平和・民主・革新の日本をめざす茨城の会(茨城革新懇)

東海第2原発の廃炉を求める署名行動

日時：9月21日(水)午後6時～7時

ところ：土浦駅西口ペDESTリアデッキ

東海原発は、稼働33年の老朽原発であり、地震・津波に対する対策についても安全とはいえません。

この危険な原発は廃炉にするしかありません。福島の轍を踏まないために、県民をあげて政府と県に対して要求していこうではありませんか。ぜひ誘いあって参加下さい。

『原発事故と放射能の影響』講演会

日時・場所：9月24日(土)午後1時30分～3時30分

おおみやコミュニティセンター

(常陸大宮市北町400-2)

講師：岩井 孝氏（日本科学者会議会員・日本原子力開発機構労働組合中央執行委員長）

主催：おおみや平和の会、新日本婦人の会大宮支部、日本年金者組合大宮支部

【シリーズ】わか街 わか会員

ひたちなか市 / 近澤 重男 さん（ひたちなか平和の会）



今年の夏はことのほか暑く寝苦しい。仕方なく深夜テレビを見た。選ぶこともなく見たNHK・BSチャンネルでの戦争体験の映像に見入ってしまった。南方戦線で飢餓状態になり、人肉をも食べた告白、あてもない前進命令に中国の山野をよれよれになって進む姿、85歳前後の戦争体験者の苦しい告白には、思わず目頭が熱くなる思いでした。

若いつもりの私も78歳となり、戦争の時代を生き抜いてきた一人として、今回筆をとりました。

12月8日の早朝、機関銃の音や大砲の音で私は飛び起きた。太平洋戦争勃発の音を上海で聞いた。イギリス、フランスなどの租界への攻撃開始の音だった。

8月15日の玉音放送も上海で聞いた。上海では8月13日には、日本は負けたと商店街には一斉に、イギリス、アメリカの国旗が翻っていたので、戦争終わりの放送だと思って聞いた。当時小学校6年生の私は「耐えがたき耐え…」で、戦争に負けたとわかった。これで、戦争に行かなくて済むと思い、ほっとした思いでした。

尋常小学校に入学し、2年生から6年生まで国民学校の生徒だった。日本人学校では、内地と同じく、「軍国主義者」を叩き込まれた。「教育勅語」の丸暗記をはじめ、毎月8日の神社詣。修身の時間での「歴代天皇の丸暗記」「神の国」「神風が吹く」「大東亜共栄圏」の話に始まり、いつでも兵隊になる覚悟でいろとの話は、内心恐ろしかった。早く戦争が終わってくれば自分の番までは来ないと思っていたが、口にすることはなかった。

終戦・翌年の4月6日に、米軍の「戦時標準船リバーティ」で運ばれ博多港に着いた。無一文の帰国で、戦後の生活は苦しく、一家総動員の暮らして何とか生き抜いた。教育だけは必要と進学させてくれた父・母には感謝している。

「勤評は戦争への一里塚」の日教組運動から今日まで平和運動に参加しているのも、こんな経験が底流にあるのかとも思っています。